

令和8年度 調布市立第三小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
◎情操の豊かな子ども ○自主的に学ぶ子ども ○明るく健康な子ども	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像、教員像、児童・生徒像	
○元気	主体性を育むための「心の元気(エネルギー)」を養い、児童が安心して表現し、他者と協働しながら自分を伸ばすことができる学校
○やる気	学びに向かう力を伸ばすため、児童の意欲を引き出すための仕掛けを工夫し、指導力の向上に努める教職員
○根気	粘り強く取り組む姿勢や失敗から学ぼうとする姿勢を育み、挑戦を続ける子どもの育成
ビジョンの設定理由(本校の現状と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ○児童は明るく素直で、あいさつもよくできる。児童が更に充実した学校生活を送るために自尊感情を高め、情操豊かな児童の育成に努める必要がある。 ○教職員が児童の「生きる力」の育成を念頭に置き、児童の主体的・対話的で深い学びの充実を目指し、教科担任制により専門性を高めることで授業力の向上を図る。 ○児童が社会において自立的に生きる基礎を養うことができるよう、多様な学びの場を提供するとともに、情報活用能力を高める必要がある。 ○保護者や地域と共にある学校を目指すため、社会に開かれた教育課程の推進を図るとともに、納得と信頼を得るよう努める。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な国語の知識や技能 ・筋道立てて考えたり文章の中の重要な語や文に着目して文章を書いたり読み取ったりする力 ・目的を意識して伝え合う内容を検討する力 ・言語文化を理解し、親しもうとする態度 ・すすんで読書をし、言葉を使おうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語事項の基本的知識や技能を身に付けさせ、文章を書いたり発表したりする。 ・叙述や資料を根拠とし、重要な語や文を見付けながら読む。 ・自分の考えをもち、友達との対話や話し合いの中で考えを広げたり深めたりし、目的に合わせて適切な方法で表現し共有する学習活動を行う。 ・様々な作品に触れ、言葉による表現の面白さや内容の豊かさに触れる機会を多くもつ。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地域の地理的環境、社会の仕組みや働きについての理解を図り、情報を適切に調べ、まとめる力 ・社会的事象を多角的に考え、適切に表現する力 ・よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に地図や資料集を活用し、資料を正しく読み取ったり対話を通して資料から分かったことを広めたり深めたりして資料活用の技能を身に付ける活動を行う。 ・学び合いや体験的活動を充実させ、社会的事象を比較・関連・総合させて再構成する学習活動を工夫する。 ・児童の気付きを基に学習問題を設定し、問題解決型の単元計画をつくることで、主体的に学ぶ姿勢と他者意識を育む。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を通して基礎的・基本的な概念や性質などを確かめながら理解する力 ・数直線や図、計算のきまり等を活用して筋道を立てて考え、対話を通じて数学的に表現・説明する力 ・よりよく問題解決をしようとする意欲をもち、対話や協働を通じて学びを深め、生活に生かそうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との対話や説明・問いかけを通じて、算数の基本的な考え方や意味を理解する活動を行う。(ペアやグループで考えを言葉にする活動・多様な考えや誤答を共有・「なぜそうなるのか」の問い返し) ・問題の解決に向けて、数や図、式などを用いて考えを整理し、対話や ICT の活用による共有を行う。 ・生活に結びついた問題設定(買い物、料理など)を行う。振り返りを実施する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象に対する概念や性質、規則性の理解 ・観察、実験などの技能 ・見通しをもって実験・観察を行い、問題解決ができる力 ・自然に親しみ生命を尊重する態度 ・対話や協働的な活動を通して主体的に問題解決しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容や生活経験を振り返り、単元の学習内容と結び付けられるよう指導計画を工夫して作成する。 ・思考ツールを使って自己の学びの成長が分かるようにする。 ・教材教具を十分に準備し、すべての児童が実験や観察に参加し、協働的に活動できるようにする。 ・問題解決の力を付けるために、各学年の重点を意識した授業づくりを行うとともに、対話の場面を取り入れる。 ・動植物の飼育や栽培などの体験活動を多く取り入れる。 ・自然の事物や現象に多く触れさせる。

<p>生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、身近な人々、社会や自然のよさや関わりに気付く力や生活に必要な習慣や技能 ・身近な人々、社会や自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、伝える力 ・体験したことを振り返り、よりよい生活をするために自分にできることを考え、それを表現し、実行できる資質 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験（遊び）の場を設け、様々な気付きがもてるようにする。 ・気付きに対しての自分なりの表現や比較ができるよう豊かな言語環境の場を増やす。 ・対話、話し合い活動を授業に位置付ける。 ・体験後に一人一人が考えたことを多様に表現できるよう、様式や発表方法を工夫する。 ・身近な人々に対する感謝や自然を大切にする気持ちもてるよう、道徳等、他教科との関連を意識した活動を行う。
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽・音楽づくりの各領域を表現したり、演奏の楽しさを見付けながら鑑賞したりする基礎基本の技能 ・曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解 ・自分の思いや意図をもち、すすんで表現する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然で無理のない発声法や楽器の正しい奏法をしっかりと押さえる。 ・演奏表現や音楽づくりの活動に向けて読譜や楽曲の構造理解を進める学習を取り入れる。 ・互いの歌や演奏などを聴き合い、友達との対話を通してよりよい表現についての思いをもち演奏に生かす。 ・音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、演奏のよさや面白さを見出しながらかき深める。
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の感覚や行為を通した形や色などの特徴についての理解 ・自分の思いを基に工夫してつくったり表したりする技能 ・感性を働かせながらつくり出す喜びを味わい、生活や社会の中の形や色などに豊かに関わろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・試しながら取り組むことで、自分自身がよいと思う色や形が見付けられるようにする。 ・材料や道具、題材に興味をもたせたり、活動の見通しをもたせたりして、活動全体に対する関心や意欲を高められるようにする。 ・友達と交流する時間を設け、作品のよさや美しさに気付くとともに、自分の見方・感じ方を深められるようにする。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や家庭、衣食住、消費や環境など日常生活に必要な知識や技能 ・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、児童同士で協働しながら様々な解決方法を考えることで、自らの思いや考えを表現する力 ・家族の一員として、家庭の生活をよりよくしようと工夫する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の方々の協力によって家庭生活が営まれていることを知り、家族の一員として家庭内の仕事を見付け、取り組むことができるような授業を計画する。 ・日常生活で当たり前に行っている家庭の仕事に目を向け、問題を見出し、課題を設定する活動を行う。 ・児童同士の話し合いや実践を通して、生きる力としての「家庭科」の学習を意識付ける。 ・自分の生活に必要な情報を吟味、選定、発信できるようにする。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつでも、どこでも、だれとでも」「楽しく、安全に」運動ができる力 ・「楽しくするための工夫」を考えることができる力、見付けることができる力 ・規則や決まり、ルール、保健分野の知識・理解に基づいた運動の行い方の理解 ・自分や仲間の課題を見付け、気付いたこと等を伝えたりまとめたりする思考力・判断力・表現力 ・意欲的、かつ安全に運動しようと主体的に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習内容を把握したり、自ら課題を発見したりできるようにするため、本時のめあてや単元目標の設定を明確にする。 ・指導と評価の一体化を行い、育成したい資質・能力を指導者が明確にし、子どもがその力を身に付けられるようにする。 ・指導する内容と子どもに気付かせたい内容を整理し、指導者の声掛けの工夫や子どもたち同士の対話的な学び合いの素地へつなげる。 ・ICT機器を活用し、指導内容の整理や技能のポイント等を児童が視覚的に捉えたり、動画等を活用したりして互いの動きや振り返りが行えるようにする。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の働き、役割に関する理解及び技能 ・外国語で情報や考えなどを表現し合う力 ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り日本語での説明を少なくし、ジェスチャー等を用いながら外国語で説明する。 ・児童同士のコミュニケーションの場を多くする。 ・国によって文化が異なることを理解できるよう、様々な文化圏に触れる機会を設定する。
<p>道徳科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や体験とねらいとする道徳的価値を関連付け、「自己を見つめる」＝「客観視できる」資質 ・相手の思いや考えを聞き、多様な意見を尊重し、互いのよさを認め合うことのできる資質 ・自分事として自らの考えを述べたり、よりよい行動をしようとしたりする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書により児童の考えを促せるよう「見える化」の類型やICT等のツールについて工夫し、思考の共有化を図る。 ・対話や話し合いの場面を設定し、その活動を通して他者の考えを知り、自己の考えの変化を振り返る場面を設定する。 ・児童の学びの見取り方を整理し、「自己を見つめる」姿の実現を図るとともに、評価にも生かしていく。 ・学年担当の教員による全クラス交換の授業を行い、考え、議論しながら自我関与に重点をおいた授業展開を行う。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や基本的な表現についての理解及び技能 ・外国語で自分の考えや気持ちなどを伝え合う力 ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語への抵抗感を少なくするために、ジェスチャー等を用いて楽しい雰囲気づくりを行う。 ・ALTと児童や児童同士のコミュニケーションの場を多くする。 ・外国語やその背景にある文化に触れる機会を設定する。